

日本物理学会領域2 運営会議 議事録案

日 時：2025年3月19日(水) 12:15-13:00 (終了時刻)

場 所：Zoomによるオンライン

参加者（敬称略）：長崎（司会）他22名.

議事録作成：安部

報告・議論事項

- 1) 2025年4月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表，領域副代表の候補について
- 3) 第79回年次大会（2024年秋）学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞[第19回（2025年）]に関する報告
- 5) 第80回年次大会（2024年秋）シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 領域委員会報告
- 7) 領域2での確認事項と議題
- 8) 講演件数の推移
- 9) 講演概要集提出率
- 10) その他

報告・議事内容

- 1) 2025年4月からの役員体制・役割分担について

役員体制・役割分担を確認した。代表・副代表・前代表のみの変更。

領域代表：比村 治彦（京都工芸繊維大学）

領域副代表：江尻 晶（東京大学）

領域前代表：長崎 百伸（京都大学）

役員：佐々木，三瓶，菊池

運営委員：徳澤，松山，安部，岩田，大石，川面

- 2) 新役員の推薦と領域代表，領域副代表の候補について

2025年10月からの領域役員（2025年4月から領域運営委員）の推薦。

次期領域役員：辻井 直人さん（東京大学）

次期領域役員：金 史良さん（京都大学）

次期領域役員：古賀 麻由子さん（兵庫県立大学）

今年10月中旬に2026年度の領域代表・副代表を推薦する。

3) 第 79 回年次大会 (2024 年秋, 北海道大学) での受賞者

応募者 31 名の中から, 以下 5 名を選出.

■ 玉城 直也 (阪大工院)

「金積層グラフェンターゲットを用いたレーザー駆動単色陽子加速の最適化」

■ 山田 悠斗 (名大工)

「NUMBER における間欠的な浮遊電位揺動発生時のイオン温度のガス圧依存性」

■ 吉村 溪冴 (東北大工)

「水素原子・分子線計測および衝突・輻射モデル解析による基底状態水素原子密度評価」

■ 加賀谷 重考 (東北大工)

「Retarding field analyzer を用いたイオン温度計測に対するイオン流の影響の検証」

■ 古田原 拓実 (日大生産工)

「ケルビンヘルムホルツ乱流におけるデータ駆動的な手法を用いた突発粒子輸送解析」

4) 若手奨励賞[第 19 回 (2025 年)]に関する報告

今回は 1 名の応募. 選考委員は 6 名.

受賞候補者: 武村 勇輝 (核融合科学研究所)

研究題目: 「磁場閉じ込め核融合プラズマにおける磁気島を伴う MHD 不安定性制御に向けた研究」

選考委員: 千徳 靖彦 (委員長), 比村 治彦 (副委員長), 古川 勝, 神吉 隆司, 龍野 智哉, 岡本 敦

5) 第 80 回年次大会 (2025 年秋) シンポジウム・招待講演等の提案

企画セッション (提案 1 件), 招待講演 (提案 0 件), シンポジウム (提案 0 件).

(企画セッション)

提案者: 小林 達哉 (核融合科学研究所)

テーマ: 「プラズマサイエンスの 10 課題と学際発展の展望」

- ・ 講演数 20 件程度を想定.
- ・ 現在進行中の企画セッション「メタ階層」があり, 内容も一部重複するため, 新企画の開始時期については要検討.
 - (提案者コメント) 第 80 回年次大会から実施を希望. 2025 年春季大会で関連シンポジウムを開催するため, その盛り上がりや冷めないうちに企画セッションを開始したい.
 - (提案者コメント) 他領域からの講演も募集する予定だが, 合同セッションにするかどうかは今後検討する. 合同セッションについてはプログラム編成, 重

複登壇の制限を考慮して慎重に議論する。

(招待講演・シンポジウム)

現状、提案 0 件のため、積極的な提案をお願いします。申し込みはウェブで受付（申込期間：4/30 - 5/20）、領域委員の修正期限が 5/25。

6) 領域委員会報告（2024 年 12 月 9 日、オンライン開催）

(報告事項)

- 大会運営委員会（仮名）の新設と今後の大会開催方法について
- 講演申込等のスケジュールについて
例年より 1 か月程度後ろ倒し
- 2025 年春季大会 理事会企画・記念講演・領域企画提案の採択
条件付きのものもあるが、すべて採択。
- 講演概要の英語化について
前回から継続審議。領域によって温度差はあるものの、全体としては否定的。
- 計算物理領域の新設について
新設の意義はあるが、賞の審査やプログラム等、既存領域の負担が増えないよう配慮が必要であることを確認。今後は理事会に仮領域として新設を答申する。
- 計算物理領域の試行について
 - ・ 第 80 回、第 81 回、第 82 回年次大会で試行（春季大会では開催なし）。
 - ・ 既存領域の講演数が減らないよう、新領域は全て合同セッション扱いにする。
 - ・ 試行期間中は若手奨励賞・学生優秀発表賞の受賞を行わない。
ただし、領域 2 の学生が合同セッションで発表する場合は、領域 2 から審査員を派遣しなければならない。
 - ・ 「高性能計算」、「計算アルゴリズム」、「データ駆動科学」の 3 テーマについて、合同セッションの参加有無を各領域で審議。4/3 までに事務局に連絡。

(領域 2 運営委員会での審議事項)

計算物理領域との合同セッションについて

- ・ 計算物理領域との合同テーマへの参加希望についてアンケート調査を実施。運営委員会終了後、PlasmaML に案内を送付予定。
- ・ 合同セッションに参加する場合も、講演申込時に主領域（領域 2）の記載欄があるので、合同セッションに参加する場合も領域内の講演者数は減少しない。
- ・ 合同セッションと領域内セッションの並行は極力避けるが、合同セッションへの参加人数が少ない場合は並行する可能性あり。

7) 領域 2 での確認事項と議題

以下の事項について確認した.

- Plasma メーリングリストの運用
- 学生優秀発表賞
- シンポジウム, 招待講演
- シンポジウム等での online 登壇

8) 講演件数の推移

第 79 回年次大会 110 件, 2025 年春季大会 82 件で減少傾向.

9) 講演概要集提出率

領域 2 の概要提出率は 80/82 (97.5%). 他領域と比較して特に問題ない.

10) その他

■ NIFS 一般共同研究の申請

次年度の申請は行っていない。(理由: オンライン会議の普及により, 会合への予算措置が必要なくなったため. また, 共同研究申請しなくても領域 2 のメーリングリストや HP の管理が可能になったため.)

■ 80 周年記念国際シンポジウムの開催

日本物理学会誕生 80 周年記念行事として第 81 回年次大会の前日 (2026 年 9 月 13 日) に国際シンポジウムを開催.

■ オンライン大会でのポスターセッションの形式変更

現行のポスターセッションに代わる新形式の導入を検討. 領域 2 ではポスターセッションを開催していないので, 特に審議しない. 新形式について意見があれば, 領域代表に連絡.

■ 同時翻訳字幕機能の導入について

2025 年春季大会で Zoom の同時翻訳字幕機能を試験導入. 領域内で使用した感想などの意見があれば, 大会後に領域代表 or 事務局に連絡.

■ 講演数の減少について

他領域と比べて領域 2 (プラズマ物理) の規模が小さいことが懸念. 分野の縮小を阻止するためにも, 積極的な講演申し込みをお願いする.

講演申込の敷居を低くすることも必要か. 学生発表などは途中段階の研究報告も認めるような寛容さが必要.

以上